

【森の里地区】令和4年度自治会長と市長とのまちづくりフリートーク実施結果【最終報告】

日時: 令和4年7月2日(土) 午後4時45分～午後6時10分
会場: 森の里地区市民センター
参加者: 地区の自治会長(5名)、公民館地区館長、
市長、副市長、教育長、市長室長、まちづくり計画部長、教育総務部長、地区市民センター所長

テーマ① 『小・中学校の適正規模・適正配置』について

少子化が進む森の里地区においては、森小及び森中の適正規模・適正配置が提案されている。小規模校の維持が困難であることは理解できるが、地域コミュニティの拠点としての小・中学校の役割は大きく、地域の分断につながらないためにも慎重な対応が必要である。
本施策について、下記の点を検討いただきたく提案する。

自治会長からの意見

市長等からの回答

意見1 森の里地区の将来人口について

【森の里地区自治会連絡協議会】

■森の里地区の将来人口については、森の里東地区の開発等で居住希望が増えるとともに、世代交代が進むと想定され、森の里地区の将来の子持ち世代住民増が望めるとの期待があるが、市の意見を聞かせてもらいたい。

【市長】

■将来の人口については、現状を分析し、将来展望と目指すべき将来方向を示した「人口ビジョン」において、令和22年(2040年)の各地区別の人口を推計しているが、少子高齢化の進展等の影響は不可避であり、森の里地区に限らず、市全体としても人口減少すると想定している。
ただし、開発インパクトによる生産年齢人口の流入により、人口構成が改善される可能性も考えられるので、今後も人口の動向を注視しながら、状況に応じて、転入促進や雇用創出、合計特殊出生率上昇などに向けた取組を進めていく。

《現況・今後の対応等》

■今後も人口動向を注視し、転入促進や雇用創出などに必要な施策を展開していく。(企画政策課)

《中間報告以降の状況等》

■将来の人口については転入促進や雇用創出など、引き続き必要な施策を展開していく。

テーマ② 『地域公共交通の整備』について

森の里地区では、住民の高齢化に伴う高齢者家族の増加により、自力での買い物や病院通い等が困難になる人々が増えている。移動困難となった人を救う公的・準公的移動支援策は、市民の日常生活及び地域社会を成立させるための基幹的な施策である。厚木市では森の里地区に関する交通施策として「路線バスの輸送力等を強化し、住民の快適な移動環境の向上に取り組む」としているが、その内実を明確にしたいので、厚木市の考え方を伺いたい。

自治会長からの意見

市長等からの回答

意見1 路線バスの減便について

【森の里地区自治会連絡協議会】
 ■地域公共交通の基軸は路線バスの定時運行であり、森の里地区においては、本厚木駅と愛甲石田駅へ向かう神奈中バスが運行されているが、ここ1、2年は神奈中ダイヤ改正の度に減便されている。
 厚木市では、利用者が少ない路線は減らすという企業効率優先の考え方に對し、どのような考え方で臨んでいるのか。
 また、森の里地区における現行の神奈中バスの運行ダイヤは充分だと考えているのか、A16更に「路線バスの輸送力等を強化」するためにどのような施策を考えているのか。
 ■バス通勤をしているが帰りも含めて満員。減便され、その分迎えに来る車が増え、(愛甲石田駅)ロータリーにも車が入ってきている。他のバス会社が競合することはないのか。

【市長】
 ■コロナ禍によるテレワークやオンライン授業などが増え、通勤、通学等のバス利用者が大幅に減少したことが影響し、バス事業者が利用者への影響を最小限に留める範囲でダイヤ改正を実施したと聞いている。
 ■神奈中バスとは定期的に会議を行っており、減便をしないように要請している。
 【上副市長】
 ■長期的な話として、バスの定時性を改善しないとバスの利用が進まないため、関係部や国・県と連携して行っていきたい。
 【まちづくり計画部長】
 ■森の里地区は、本厚木駅・愛甲石田駅の両駅へのアクセスが確保され、路線バスについては、利用実態を踏まえて減便されているが、バスの混雑状況等に変化があった場合には教えていただきたい。
 ■バスの状況や愛甲石田駅ロータリーについては、状況を確認する。
 ■全国的にコロナ禍や原油の高騰により、バス会社の経営が厳しくなっているため、競合他社に参入してもらうことは全国的にも厳しいと状況である。
 <現況・今後の対応等>
 ■減便により利便性の低下が生じないよう、バス事業者には要請していく。(都市計画課)
 <中間報告以降の状況等>
 ■路線バスが減便されないよう、継続してバス事業者に要請している。

意見2 市民協働事業由来の「ぐるっとバス」に対する支援策について

【森の里地区自治会連絡協議会】
 ■厚木市では、コミュニティ交通施策として、通常の路線バスを補完する地域巡回タクシーの導入(荻野地区)及び最近ではデマンドタクシーチケットの実証実験(毛利台地区)を行っている。これに対し、森の里地区では、厚木市の市民提案型市民協働事業の認定を受け、平成23年から「一般社団法人厚木ぐるっと」が地域巡回の無料バスを1日8周・週3日運行し、3年間の助成期間後も市民サイドの独自事業を継続している。
 今後、厚木市ではこの市民協働事業由来の「ぐるっとバス」に対する市民協働型の支援策をどのように考えているのか。

【市長】
 ■「厚木ぐるっと」の応援はいつでもしたいと思っている。
 【まちづくり計画部長】
 ■「厚木ぐるっと」については、11年間自主自立して活動していただき、感謝している。何かあれば市としても支援するため、御相談いただきたい。
 ■事業終了後も団体との協力関係を維持し、現在は、活動場所の確保や事業の周知などの支援を行っている。
 今後、担い手不足など、継続していくことが困難な場合や、何らかの支援が必要となるようであれば、市としても応じていくので、御相談いただきたい。
 <現況・今後の対応等>
 ■市としても支援していくので、必要に応じて具体的に相談してもらいたい。(都市計画課)
 <中間報告以降の状況等>
 ■今後何らかの支援が必要であれば、市としても支援していく。

意見3 森の里地区内を巡回するミニ路線バスの導入について

【森の里地区自治会連絡協議会】
■現在、「若宮橋」バス停を通る路線バスの本数は朝夕を中心に企業や大学向けに極めて多いが、住宅地内への運行が少ない状況にある。
森の里地区内を巡回するミニ路線バスを導入させ、本数が多い「若宮橋」へリンクする構想を始め、今後の路線バスとコミュニティ交通の効果的な相互補完関係を目指す等について、厚木市と森の里地区(自治連)との定期的な協議の場が設置されることを提案する。

【まちづくり計画部長】
■森の里地区の中央に位置する若宮橋バス停については、運行本数も多いため、「サイクル アンド バスライド」自転車駐車を整備するなど、路線バスを利用しやすい環境づくりに取り組んでいる。
■若宮橋バス停へ運行するミニ路線バスについては、正に「厚木ぐるっと」がアクセスしており、市の考えでもある路線バスを補完するコミュニティ交通の考えと一致している。今後は、「厚木ぐるっと」が地域の皆様の移動手段としてより一層便利になるよう、地域との協議に応じていきたい。
■コミュニティ交通を始めるにあたり、地域公共交通会議で承認を得なければいけないため、メリットデメリットを含めて年度ごとに報告し、評価検証を行っている。地域に合ったコミュニティ交通を検討していきたい。

《現況・今後の対応等》
■「厚木ぐるっと」がより一層便利となるよう地域と協議していきたい。(都市計画課)

《中間報告以降の状況等》
■現在、関係者と協議に向けて調整している。

意見4 高齢化率が進んだ各地区における移動困難者の交通手段について

【森の里地区自治会連絡協議会】
■厚木市では高齢化率が進んだ各地区における移動困難者の交通手段をどのように考えているのか。

【市長】
■今やっていることが全て良しではなく、地域によってニーズが違えば対応方法も変わるため、地域ごとに協議し良い方向に進めていければ良いと思っている。

【まちづくり計画部長】
■市では移動手段の確保と併せて、スーパー・診療所等を誘致する取組も行っている。

《現況・今後の対応等》
■コミュニティ交通などの移動手段の確保と併せ、生活利便施設を誘致することで暮らしやすい地域づくりを目指していく。(都市計画課)

《中間報告以降の状況等》
■今後も移動や買い物など暮らしやすい地域づくりを目指していく。